

1	議席番号 3 番 遠藤 孝子 議員	開始予定時刻 3月14日 午前9時
<p>【子育て環境の充実について】</p> <p>第5次総合計画の事業として、「誰もが健康でいきいきと暮らせるまちづくり」を掲げ、今年度11の主な事業の取り組みが明示されました。</p> <p>更なる住みやすい町への計画、実行に期待するところです。</p> <p>特に、安心安全な環境づくり施策を土台とし、人づくりとしての子育て及び教育は重要であると考えます。</p> <p>そこで、子育て環境の充実について次のことをお伺いします。</p> <p>1 ファミリー・サポート・センター事業（子育て援助活動支援事業）について</p> <p>(1) 地域子ども・子育て支援事業として位置づけられている、この事業は大いに期待されると思いますが、サポート会員やリクエスト会員を希望する人々に届く広報をどのように考えていますか。</p> <p>(2) サポート会員の研修目的及び内容のポイントをお聞きします。</p> <p>(3) リクエスト会員の募集状況についてお聞きします。</p> <p>【吉田町の教育改革の取り組みについて】</p> <p>第5次吉田町総合計画前期基本計画では、「一人ひとりの個性を伸ばす学校教育環境が充実したまち」を目指す状態としています。</p> <p>吉田町教育大綱で「生涯にわたり学びあい高めあう人づくり」を教育目標とし、ラーニングプランでは「基礎学力向上・確かな学力」の実践に取り組んでいます。</p> <p>今、具体的実践としてTCP・トリビンス・プランが発表され、その成果が期待されることです。</p> <p>そこで次のことについてお伺いします。</p> <p>1 「吉田町のすべての子どもに最良の教育サービスを提供すること」を目標に掲げたTCP・トリビンス・プランの概要とその具体的な施策についてお聞きします。</p> <p>2 次期学習指導要領との関連では具体的にどのような点を先取りするのかお聞きします。</p>		

2	議席番号 1 2 番 大石 巖 議員	開始予定時刻 3 月 14 日 午前 10 時
<p>【誰もが気軽に利用できる交通システムについて】</p> <p>吉田町は、他自治体と同様に高齢者が増加しています。</p> <p>買い物に出かけるのが大変な人、障害や病気で一人では外出が難しい人、車での外出を控えたいと思っている高齢者など、いわゆる「交通弱者」といわれる人が増えています。</p> <p>食料品・日用品の買い物、役場や図書館、榛原総合病院や医院、金融機関などへの交通手段として、町内巡回バスやデマンドタクシーを希望する声が聞かれます。</p> <p>外出しやすい環境整備は福祉の優先課題でもあります。</p> <p>「誰もがいきいきと暮らせる環境創出」のために、以下の質問をいたします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 町内での「交通弱者」といわれる人たちの状況をどのように把握しているか。 2 住民のニーズを把握し、事業者や利用者を含めた「生活交通確保対策協議会」の設立や協議内容はどうか。 3 福祉サービスの向上、健康保持、交通安全など多面的な角度から、「気軽に利用できる交通システム」構築は喫緊の課題と考えるがどうか。 		

3	議席番号 5 番 山内 均 議員	開始予定時刻 3 月 14 日 午前 11 時
<p>【生活雑排水・汚水処理対策と下水道・浄化槽について】</p> <p>第5次吉田町総合計画、第6章、豊かな自然と共生するまちづくり、下水道・浄化槽について質問します。</p> <p>公共下水道全体計画は平成元年に策定し、計画目標年次を平成22年、計画区域面積を826haとした。</p> <p>平成13年の見直しでは、計画目標年次を平成32年度、計画区域面積を920haとした。この全体計画に基づき平成22年度に見直しをして、事業期間を平成23年度から平成29年度まで、計画区域面積を340haとした事業認可を受けて事業を進めている。</p> <p>平成27年度末では340haのうち259.9haの整備が進んでおり、人口2万9,762人のうち1万1,530人に対する整備となる。</p> <p>人口普及率は38.7%となっている。</p> <p>公共下水道全体計画区域のうち未整備区域の整備に要する期間は、過去5年間の平均管渠整備費を用いた算定では、残りの下水道区域の整備に要する期間は、55年という算定を出している。</p>		

公共下水道事業の最大のリスクは、整備費用がとてつもなく掛かることである。

- ・ 平成25年度は、公共下水道総事業費9億8,283万円、公債費と予備費を除いた事業費は4億6,316万円で利用できる人を160人増やした。

一人あたりに掛った費用は総事業費で614万円、事業費で289万円。

- ・ 平成26年度は、公共下水道総事業費8億9,505万円、公債費と予備費を除いた事業費は3億6,823万円で利用できる人を185人増やした。

一人あたりに掛った費用は総事業費で483万円、事業費で199万円。

- ・ 平成27年度は公共下水道総事業費12億1,200万円、公債費と予備費を除いた事業費は6億7,766万円で利用できる人を27人増やした。

一人あたりに掛った費用は総事業費で4,488万円、事業費で2,509万円であった。

平成27年度は、浄化センター工事と幹線道路を含む下水道事業を行ったのが費用が大きく掛かった理由であった。

これからは戸数の密度が小さくなり、事業費は大きくなる可能性がある。また、公共下水道事業に掛かった借入金の返済に一般会計等から、平成26年度は5億8,629万7,000円、27年度には6億4,282万9,000円が払われている。

一方、循環型社会形成推進地域計画の中、公共下水道の未整備地区においては効率的な合併処理浄化槽の普及のため、平成27年度から平成31年度までの5年間に合併処理浄化槽400基の整備と事業費1億5,590万円を計画している。

合併処理浄化槽の設置費用は1基(5人槽)当たり80万円くらいである。町は平成27年度と平成28年度に全体計画の見直しを行ったことから、平成29年度からは見直した計画に基づき事業を実施していくとしている。

そこで質問をします。

1 公共下水道事業について。

- (1) 平成27年度と平成28年度にどのような見直しを行ったのですか。
- (2) 見直しの中で、計画目標の達成に掛かる費用は算定しましたか。
- (3) 一般会計から多額の繰入金を入れてまでやらなければならないのですか。
- (4) 受益と負担の関係が成立していない計画区域外の対策は考えていますか。

2 合併処理浄化槽について。

- (1) 設置費用は1基（5人槽）当たり80万円くらいででき、経済的に自然環境の保全を図ることができる合併処理浄化槽への設置変えは促進するべきであると思うがいかがですか。
- (2) 循環型社会形成推進地域計画は経済的・効率的な生活排水処理に対する合併処理浄化槽設置に補助金制度を設けている。推進計画はありますか。
- (3) 島田市では、合併処理浄化槽への切り替えに65万円の補助金制度を設けている、吉田町では考えませんか。

4

議席番号 9 番

藤田 和寿 議員

開始予定時刻

3月14日 午後1時

【入札落札率100%の結果について】

町は、発注する建設工事について、公共工事の入札及び契約の適正化の促進を図るために、「吉田町建設工事等の入札及び契約等に関する情報公表要綱」に則り情報の公表を行ってしています。

毎月発行されている「広報よしだ」には、町民に対し入札結果を掲載するとともに、町のホームページにも入札契約情報を詳細に掲載し広報しています。

「広報よしだ1月号」の入札結果の中に、抽選型指名競争入札で片岡2号汚水幹線工事(第2工区)の落札率が、100.00%と公表されていました。

この内容を拝見された町民の方から「競争入札で100%もあるんだ」と尋ねられ、正確な内容を把握してなく説明できませんでした。

これまでの入札率の傾向と比較すると同じ素朴な思いを抱いた方々も多いと考えます。

札入れ価格は、業者の意志で競争を行うものであり、落札者は問題ありませんが、発注側について競争入札の観点で考え検証する必要があると考えましたので、町に対して以下について伺います。

- 1 事業の予算化後から検査までの業務は、どのような流れですか。
- 2 今回の入札結果を、どのように分析されていますか。
- 3 4月1日現在の建設工事発注見通しで入札時期が8月下旬と公表されていたが、12月21日まで伸びた理由は何ですか。
- 4 12月21日入札で抽選型指名競争入札が7本行われたことが、要因ですか。
- 5 今後において、改善や対応を考えていますか。